

2 . 紫野学区の概要

(1) 紫野学区の成り立ち

明治中期

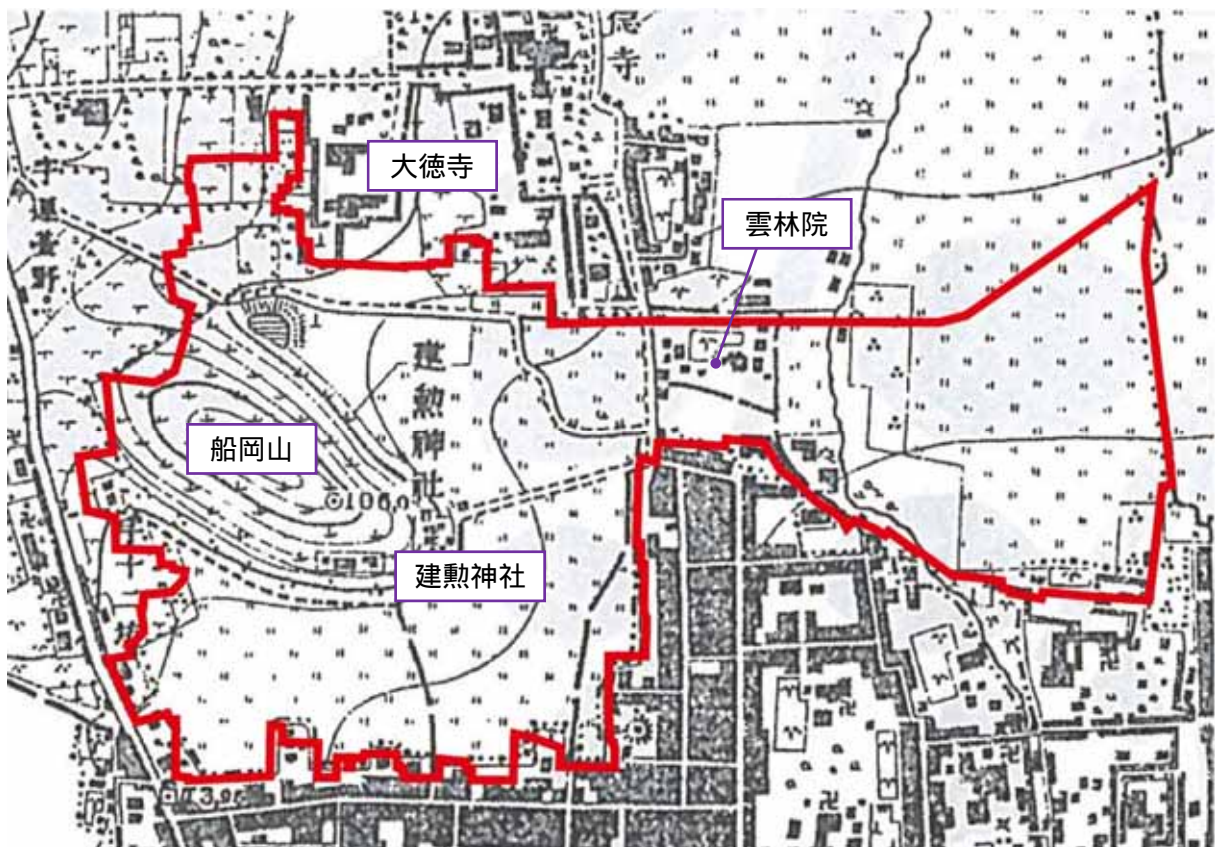
船岡山は、平安京の中心を貫く朱雀大路（現在の千本通）の延長上に位置し、平安京造営の起点になったと言われています。

平安時代の紫野付近の地域は、御所北西部にあって御所と近く、しかも洛外に当たるため、貴族の遊猟の土地でした。

平安時代初期の「類聚国史」には、その延暦 14 年の条に「桓武天皇が紫野において狩りをされた」と記されています。

また、清少納言が「野は紫野」と詠むほど、京の七野（内野、北野、平野、上野、紫野、蓮台野、ノ野）を代表する由緒ある地でした。

明治 23 年頃の地図を見ても、道らしい道は整備されておらず、学区のほとんどが野原であった様子が分かります。



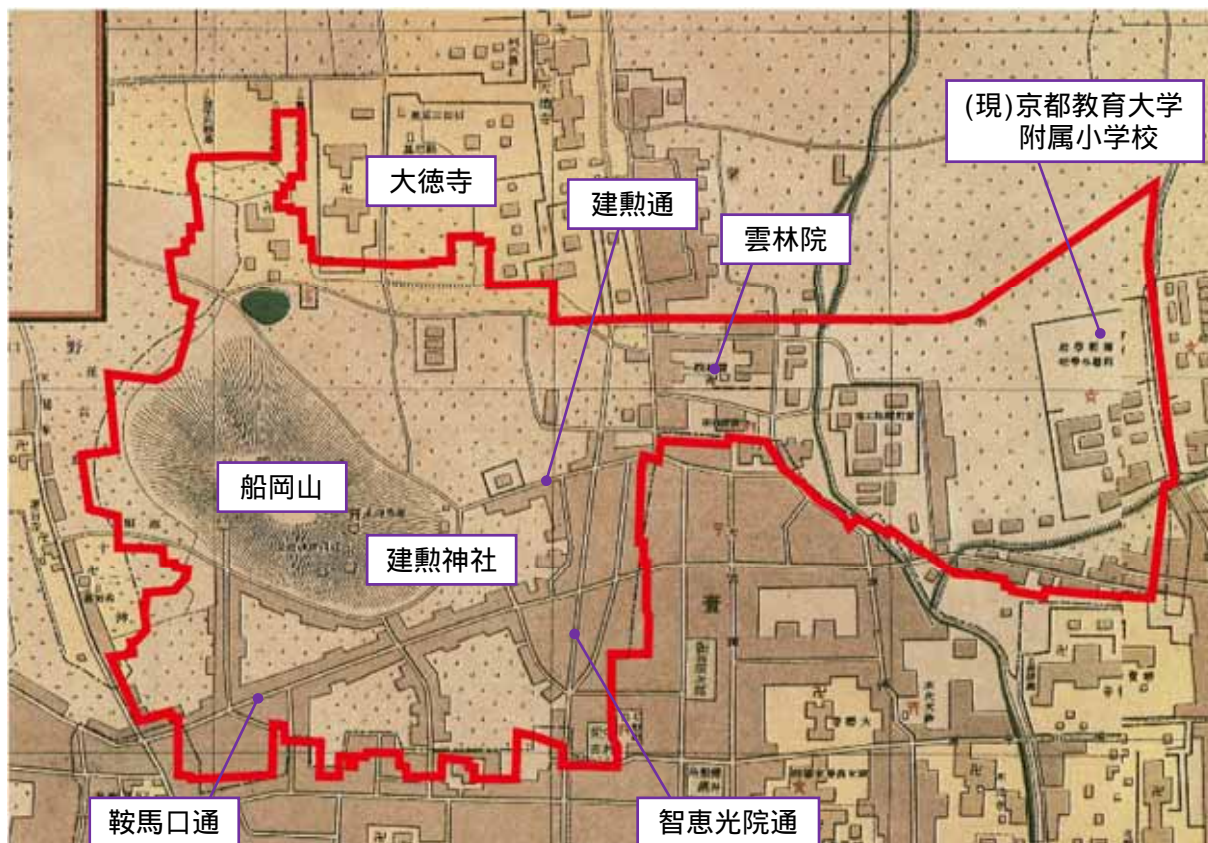
【明治 23 年頃の紫野】(京都市文化財保護課所蔵)

大正初期

大正初期には、鞍馬口通、智恵光院通、建勲通などが開通しており、学区東側には学校も立地しています。

これらの通りの沿道では自然発生的に宅地化が進んでおり、鞍馬口通などは古くから地域の中心地、交通の要衝であったことが伺われます。

一方、これらの沿道の背後地や鞍馬口通より北側の地域、学区の東側の地域では、まだ野原が広がっている状態でした。



【大正4年頃の紫野】

(「大典記念京都市街地図」(京都市文化財保護課所蔵))

戦前～現在

昭和初期にかけて、野原が残っていた鞍馬口通の北側を中心に、学区の約2 / 3ほどの範囲で土地区画整理事業が行われ、北大路通や堀川通などの京都市の骨格となる道をはじめ、船岡東通などの学区内の主要な道が東西・南北に整備されました。一方、鞍馬口通の背後地などは、都市基盤の整備が行われなまま市街化が進行していきました。

戦前の町並みの様子を見ると、この頃には現在とほぼ同程度の市街地が形成されていたことが分かります。



【戦前土地区画整理事業の範囲】



【戦前の紫野】(「京都市明細図」京都府立総合資料館所蔵)

(2) 紫野学区の魅力(大切にしたいもの)

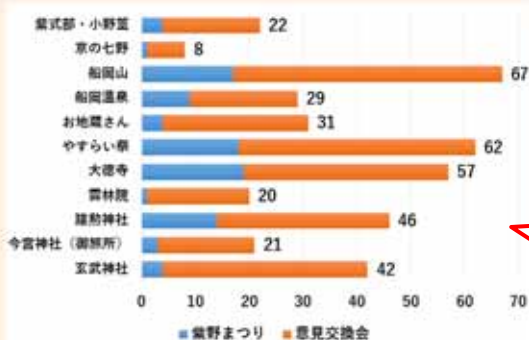
歴史

紫野学区は、平安京造営の起点とされる船岡山、建勲神社や玄武神社、大徳寺や雲林院などの由緒ある寺社、やすらい祭などの地域に根差した民俗行事、常盤井や紫式部の墓などの謂れのある地、路地ごとに見られるお地蔵さんをはじめ、数多くの歴史資源がまちの中に溶け込んでいます。

また、これらがしっかりと守られているとともに、御朱印巡りや歴史的建造物の活用など、歴史資源を活かしたまちづくり・地域活性化が進められています。



Q あなたが思う紫野学区の魅力(大切にしたいもの)は何ですか? / 歴史



「船岡山」や「やすらい祭」、「大徳寺」を魅力と思う人が多い
そのほか「西陣織」、「都山流尺八の総本家」など

コミュニティ

戦前から現在まで、まちの形がほぼ変わらない状況の中で、路地のある暮らしの中で培われてきた昔ながらのコミュニティがしっかりと息づき、町内会活動も盛んに行われ、地域活力の源となっています。

紫野学区は、かつて西陣織が盛んなまちであり、分業制に基づく産業型のコミュニティが形成されていました。

狭い路地や長屋など昔ながらの町割りが残ることから、隣近所との距離が近く、住民どうしの日常的な声掛けが見られるほか、地蔵盆、やすらい祭などは、伝統的行事でありながら地域コミュニティの活性化に重要な役割を果たしています。

京都らしい町並みやコミュニティが残る一方で、大規模マンション等の立地により新しい住民が増えており、紫野まつりなどは住民同士の交流の場となっています。

また、北大路通沿いなどには事業所も多く立地しており、町内会と災害時の協力協定を結んでいる事業所もあります。



まちなみ

紫野学区は、戦前に広い範囲で土地区画整理事業が行われ、北大路通や堀川通などの京都市の骨格となる広い道をはじめ、船岡東通や建勲通などの学区内の主要な道が東西・南北に整備されており、これらの沿道では建物の更新が進んでいます。

一方、土地区画整理事業で整備された主要な道の背後地や都市基盤の整備が行われていない地区では、昔ながらの町割りや路地、町家など、京都らしい町並みが残っており、まちかどのお地蔵さんや西陣織の機織の音などが相まって、静かで暮らしやすい紫野らしい風情を醸し出しています。

また、町家の保全・活用が行われている一方で、現代様式への建替えや建替え時の敷地後退による路地の拡幅なども進んでおり、新しい町並みも形成されています。

このように、昔ながらのレトロな町並みと現代的（モダン）な町並みが融和していることが、紫野の町並みの特徴でもあります。



Q あなたが思う紫野学区の魅力（大切にしたいもの）は何ですか？／まちなみ



「静かで暮らしやすい」や「路地とお地蔵さん」、「伝統産業」を魅力と思う人が多い
 そのほか「交通が便利」、「買い物が便利」など

(3) 紫野学区の防災に関する現状と課題

『みち』

■学区全体の現状・課題

- ・京都市の幹線道路である北大路通、堀川通、紫明通が広い幅員で整備され、学区の骨格を形成しています。このうち、北大路通と堀川通は京都市の緊急輸送道路であり、優先的に耐震化を図るべき重要路線に位置付けられています。
- ・学区内では、鞍馬口通や船岡東通をはじめ、戦前に土地区画整理事業が行われた地域を中心に幅員4m以上の主要な道が東西・南北に整備され、生活の基盤となっています。
- ・一方で、これら主要な道の背後地や昔からの町割りが残る地域では、幅員4m未満の路地や行き止まりの路地が多く、幅員が1.8m未満の特に狭い路地も見られます。
- ・これらの狭い路地では、多くの建物が建替え等の困難な状況にあることから、建物の老朽化が進んでいます。
- ・また、狭い路地に沿って古いブロック塀が見られるほか、自転車や植木などが無造作に置かれて通りにくくなっている路地も見られます。

■まとめ

- 北大路通や堀川通などの沿道の建物が倒壊すると、紫野学区だけでなく、京都市全体の災害活動に影響を及ぼす恐れがあります。
- 学区内の主要な道の沿道の建物が倒壊すると、災害時の安全な避難や救助に支障をきたす恐れがあります。
- 狭い路地や袋路では、沿道の建物の倒壊などにより、避難経路がふさがれる恐れがあります。
- 路地沿いのブロック塀が倒壊したり、路地に置かれた物が障害になったりして、災害時の避難の妨げとなる恐れがあります。



『いえ』

■学区全体の現状・課題

- ・北大路通、堀川通、紫明通などの幹線道路の沿道には堅ろうな建物が多く立地していますが、一部では古い木造家屋も見られます。
- ・土地区画整理事業で整備された幅員4m以上の道沿いでは、ゆとりのある敷地も多く見られますが、狭い路地沿いや袋路の奥、路地が入り組んでいる地域などでは小規模な宅地が多く、また、昔ながらの町割りが残る地域を中心に、木造家屋が密集しています。
- ・建物の建替え等が進んでいる路地もありますが、幅員の狭い路地や袋路では建替え等が困難な状況にあり、建物の老朽化が進んでいます。
- ・高齢化の進展などを背景として空き家が増えており、紫野学区では空き家の利活用を進めていますが、放置されて危険な状態の空き家も見られます。
- ・また、空き家の民泊への利用も進んでいますが、建物の管理や災害時の連絡体制が不十分など、様々な課題も生じています。



■まとめ

- 古い木造家屋は、地震時に倒壊して居住者の身に危険性があるだけでなく、倒壊により路地が塞がれて避難や救助に支障をきたす恐れがあります。
- 木造家屋が密集する地区では、火災が発生すると燃え広がる恐れがあります。
- 適正に管理されず、倒壊や瓦が落下する恐れがある、庭木が道にはみ出すなど、周囲に悪影響を及ぼしている空き家があります。
- 空き家の民泊利用により、建物の改修が進む反面、コミュニティや災害時の対応などの面で不安があります。

『まち』

■学区全体の現状・課題

- ・西陣織のまちとして栄えた面影が残る、京町家が建ち並ぶなど、風情のある路地が見られ、紫野の魅力となっています。
- ・一方で、昔ながらの町割りが残る地域や土地区画整理事業で整備された道の背後地などでは、幅員の狭い路地や小規模な宅地が密集している状況にあります。
- ・平安京造営の起点となった船岡山は紫野学区のシンボルの存在です。
- ・公園は災害時の集合場所や延焼防止の空間などとして機能しますが、学区内には船岡山公園のほかには街区公園が1箇所しかありません。
- ・各町で災害時の地域集合場所を指定していますが、狭い路地沿いにある、古いブロック塀が隣接するなど、防災上不安な場所もあります。

■まとめ

- 狭い路地に面する狭小な宅地などでは、建築基準法の制限もあり建替えが進まず、老朽化が進んでいます。
- 狭い路地や狭小な宅地が集中する地域では、建物の建替え・改修や2方向避難の確保などの個々の対策を進めるだけでは、地域全体の防災性の向上を図ることが難しい状況にあります。
- まちなかにオープンスペース（空地）が少なく、火災が起きると燃え広がる恐れがあります。



『コミュニティ』

■学区全体の現状・課題

- ・路地のある暮らしや西陣織の分業制の中で培われた昔ながらのコミュニティが地域にしっかり根付いていますが、学生など新しい住民も増えています。
- ・幹線道路沿いを中心にマンションが多く立地しており、大規模なマンションでは単独で町内会を形成しているものもあります。
- ・また、災害時の停電等に伴うマンション固有の課題に対応して、独自に防災対策を行っているマンションもあります。
- ・北大路通沿いの一带などは、かつて大徳寺・雲林院の寺領であり、現在もお寺所有の土地が多く、地域とのつながりを有しています。
- ・幹線道路の沿道には多くの事業所が立地しており、災害時における施設利用や物資調達などの協力協定を地域と結んでいる事業所もあります。
- ・各町で地域集合場所を指定していますが、集合場所の看板がなくなっていたり、集合場所や避難のルールを知らない人がいます。
- ・また、各町で消火器や防火バケツを設置していますが、消火器の期限が切れているもの、植木等で隠れているものも見られます。
- ・高齢者が増加しており、特に、一人暮らしの高齢者世帯が多くあります。
- ・船岡山は紫野学区のシンボルですが、大雨時には土砂災害の恐れがあり、避難に対する不安があります。

■まとめ

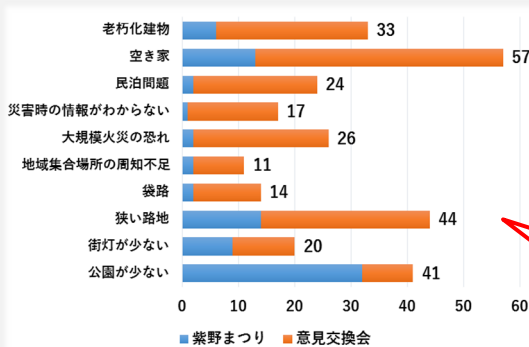
- 災害時に迅速に行動するため、災害時の避難や救出・救護の方法等に関して、地域で日頃から情報交換し、共有することが必要です。
- 防災まちづくりの取組をより効果的に進めるため、お寺や事業所等とのつながりを活かすことが必要です。
- マンション固有の課題に対応するため、マンション住民同士が情報を交換しながら、防災対策や災害時の対応を検討することが必要です。



住民のみなさんが思う解決すべき防災上の課題

紫野学区の魅力を守るために解決すべき防災上の課題に対する住民のみなさんの意識やご意見を把握するため、「紫野まつり」や「防災まちづくり意見交換会」で簡単なアンケートを実施し、たくさんの方から回答をいただきました。

Q 紫野学区の魅力を守るために何を解決したらよいでしょう？



「空き家」や「狭い路地」、「公園が少ない」を解決すべき防災上の課題だと思う人が多い

解決すべき防災上の課題に対する主なご意見

- 「災害時の情報」はどこから入ってくるのか？
- 「地域集合場所」は役員をしていないとわからない
- 「避難場所（紫野小学校）」には全員避難したら入れない
- 「高齢化」は地域の大きな課題、「若者や子供が少ない」
- 「高齢者の一人住まい」は災害時の避難が心配
- 「民泊」が急増加し心配、民泊などに対する対策を回覧等でPR
- 「民泊」で、夜間の不法駐車が多いなど、マナー問題もある
- 「火事」が一番怖い、一軒一軒が「火の用心」
- 「狭い路地」は緊急車両が通行しにくい、電柱があるとただでさえ狭い
- 防犯のためにも家の「街灯」をつける
- 「学生マンション」は人の出入りが多く、マナー問題や町内会に入らないなどがある

凡 例	
	幅員4.0m以上の道
	幅員1.8m以上4.0m未満の道
	幅員1.8m未満の道
	袋路 (突き当たりが建物)
	袋路 (突き当たりが塀・柵等)
	袋路 (突き当たりが扉)
	トンネル路地
	公園
	公共公益施設
	寺社
	紫野学区

③北大路通北側

- 幅員4m以上の広い道が多いが、所々に袋路が見られる
- 比較的敷地の大きい宅地が多い
- 袋路奥や路地が入り組んでいる箇所では、比較的空き家が多い
- 駐車場や空き地が点在している
- かつて大徳寺・雲林院の寺領であり、今もお寺所有の土地が多い

⑥北大路通～鞍馬口通

- 戦前土地区画整理事業により、幅員4m以上の道が東西・南北に概ね均等に整備されている
- 袋路や再建築が困難な幅員1.8m未満の道が多く、これらの路地沿いでは狭小な宅地が多く、空き家も比較的多い
- 古い木造家屋が密集している
- 古いブロック塀が特に多い
- 空き地は少ないが駐車場が多い

⑪幹線道路沿い

- 市の骨格となる広幅員の幹線道路
- 北大路通と堀川通は市の緊急輸送路であり、優先的に耐震化を図る重要路線に位置づけられている
- 沿道には多くの事業所が建ち並ぶ
- 堅牢な建物が多いが、一部で古い木造家屋も見られる

④堀川通東側

- ほとんどの道が幅員6m以上で、路地は少ない
- 比較的敷地の大きい宅地が多い
- 学区で唯一の街区公園がある

⑩船岡山周辺

- 学区のシンボリック存在
- 船岡山の南側は敷地の大きな宅地が多い
- 路地に段差や勾配がある
- 大雨時には土砂災害の恐れがあり、避難に不安がある

⑤堀川通西側

- 極端に狭い路地は少ないが、路地が入り組んでいる
- 建替えが進んでいる路地もあるが、古い木造家屋が多い
- 袋路奥や路地が入り組んでいる場所では狭小な宅地が密集し、比較的空き家も多い

⑨紫明通南側

- 鞍馬口通の南側は幅員の狭い路地(袋路)が多くぶら下がっている
- これらの路地沿いでは狭小な宅地が多い
- 古い木造家屋が多い

⑧鞍馬口通の背後地

- 幅員4m以上の道が少なく、路地が蜘蛛の巣状に張り巡らされている
- 袋路や再建築が困難な幅員1.8m未満の道、入り組んだ路地も多い
- 古くからの町割りが残り、敷地の狭い宅地が多い
- 古い木造家屋が多く、密集している
- 袋路奥や路地が入り組んでいる場所では比較的空き家が多い
- 空地が少ない

【学区全体に共通する特性】

- 老朽化したブロック塀が見られる
- 路地上に自転車や植木等が無造作に置かれた路地がある
- 学区全体に古い木造家屋が立地している
- 空き家が増加し管理不全のものもある、民泊問題の増加
- 京町家が建ち並ぶ風情のある路地が見られる
- 防災上有効な空地が少ない
- 地域集合場所が狭い路地沿いにあるなど不安な場所もある
- 地域集合場所の看板がない、集合場所を知らない人がいる
- 高齢者が多く、一人暮らしも多い

②マンション

- 大規模マンション
- マンションで町内会を構成
- マンション独自に防災対策を実施(コスモ紫野)

⑦鞍馬口通沿い

- 千本通と堀川通を東西に結ぶ道だが、幅員はそれほど広くない
- 店舗や事業所が建ち並ぶが、狭小で古い木造家屋も多い
- 古くから生活の中心的な道で、多くの道がつながっているため交通量が多い

